

(様式2)

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100424		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームなかのくち		
所在地	新潟県新潟市西蒲区福島311-1		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・職員の関係が良好で、毎日笑いの絶えない明るいグループホームです。買い物から調理、準備まで三食手作りの為、入居者の嗜好に考慮し、季節の旬の物を料理し、召し上がって頂いています。職員はほんの少しのお手伝いで、入居者同士助け合いの言葉も聞かれ、刺激し合って、生き活きと生活されています。みんなで過ごすリビングにはあまり掲示物等貼らず、入居者の声を聞きながら都度過ごしやすい空間づくりに努めています。個別ケアや理念についても会議で都度話し合い情報共有に努め、一人ひとりの想いに寄り添ったケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲には住宅が少なく田や畑が多い地域に立地している。隣接する母体法人の特別養護老人ホームにはデイサービスセンターや地域包括支援センターが併設されており、これらの事業所が研修や災害対策、医療面などで密接に連携して運営されている。この特別養護老人ホームに配置されているボランティアコーディネーターの働きで各事業所に適切なボランティアが紹介されており、当事業所では利用者とともにボランティアから頂いた柿を干し柿にする作業を行ったり、枝豆を干して大豆作り等を行うなど、利用者が楽しめる活動につなげている。

事業所では、利用者が笑顔でいきいきと暮らしができることを目指し、利用者同士が助け合いながら、また時には刺激し合って利用者個々ができることを引き出すように支援している。利用者はその人の力に応じてできる範囲で食事作りなどに参加しており、自宅では見られなかったそんな姿に家族は驚くとともに喜び、面会に来た際には利用者との会話も弾んでいる。管理者・職員は利用者一人ひとりの思いや個性を大切に、どんな時でも気持ちに寄り添いながら共に笑顔で暮らせるよう、心地よい環境づくりや、家族との関係や地域との関わりを大切にケアを実践している。

母体法人は特別養護老人ホーム等の介護保険事業のほか、障害者支援、子育て支援など様々な福祉事業を展開している。その中で複数の認知症高齢者のためのグループホームの運営のノウハウを活かし、連携しながら認知症への理解と啓発に取り組んでおり、今後は認知症サポーター養成講座や認知症カフェ等の取り組みなど、認知症ケアの拠点としてさらなる展開が期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来「一人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」という理念のもと、職員会議や日々のミーティングで一人ひとりの関わり方や想いを共有し、職員一人ひとりの理念に向けたケアの共有についても、意見交換を行っている。	毎月の会議の内容に、振り返りを行う項目として理念を取り入れて時間を取ることもある。日々の申し送りの際にも支援について検討する場合の視点として意見交換につなげている。事務所内に理念を掲示して、いつでも確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会の一員として、地域の一斉清掃や沿道の花壇の花植えに参加をしている。ゴミ出しは地域のゴミステーションと一緒にいき、地域の方に積極的に声を掛け挨拶を交わしている。地域のボランティアの方や入居者知人の方から野菜など頂いたり、お話に来て頂いている。	自治会の一員として利用者と職員と一緒に地域活動に参加している。地域の文化祭に家族や職員の作品を観に出かけたり、隣接する特別養護老人ホームの文化祭にパッチワークを出展している。来訪したボランティアから野菜や柿を頂き、一緒に干し柿づくりを行うなど交流を深めている。	地域との交流は積極的に行われているが、今後はさらに認知症への理解を地域住民に深めてもらうために、認知症サポーター養成講座や認知症カフェを開催するなど、活動を展開していくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や、地域の行事に積極的に参加する事で認知症についての理解に取り組んでいる。又、地元の実習生の受け入れを行い、事業所と地域の繋がりの大切さについてお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員の方から、報告をもとに貴重なご意見を頂き、事故に対しての対応方法やパンフレットの見直しに反映させて頂いている。	会議は隣接の特別養護老人ホームの会議室で行っており、メンバーから様々な意見が出されている。転倒事故については隣接のデイサービスの理学療法士からリハビリ面の指導や福祉用具の変更を検討してはどうかなどの意見をもらっている。また、パンフレットの見直しについても助言をもらい反映させている。会議録は玄関に設置して開示し、参加していない職員にも回覧して共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員から助言をいただいたり、相談をさせて頂いている。また、地域包括支援センターの方にも運営推進会議に出席して頂いている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員に参加してもらっている。市外に住所がある方の利用など、判断に迷う場合は電話で行政担当者に問い合わせを行い助言を得ている。	広報紙や事故報告を届けに利用者とともに出向くなど、市町村との関係を築く積極的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する中之口愛宕の園と合同の研修会に参加し「身体拘束しないケア」に対して理解を深めている。又、事業所内でも定期的に不適切ケアについての話し合いを行っている。玄関の施錠は夜間のみしか行わず、自由に出入りができるようになっている。	マニュアルを整備しており、毎年法人研修に参加して事業所で伝達講習を行っている。10月には内部研修を実施した。また、法人内の地域密着型リーダー会議でも身体拘束について振り返りを行っている。玄関は防犯上22:00から7:30の間は施錠しているが、それ以外の時間帯は自由に出入りができる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣接する中之口愛宕の園と合同の研修に参加し「虐待防止」に対しての理解に努めている。事業所内で虐待が見過ごされないように職員同士で声を掛け合い注意を払っている。気になる事があれば、日々の申し送り等で話し合う様に務めている。	マニュアルを整備しており、グリーゼーンの対応については毎年内部研修を実施している。毎月のケア検討会議で、個々の利用者について、リスクが考えられる場合はその軽減方法などを検討し、適切な支援ができるよう努めている。法人内でも年に1回職員のストレスチェックを行い虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々で学んでいるのみで、事業所内で学ぶ機会が不足しており、今後勉強会等を行っていく必要があると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前にグループホームに来て頂き、様子を見て頂きながら、疑問点や不安をお聞きし、納得して頂けるように説明させて頂いている。入居前に何度もお越し頂き雰囲気を感じ、いつでも相談して頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。設置以来意見等の投稿を頂いた事がないが、行事の折には、ご家族にも参加して頂き、家族と職員が意見交換できる機会を設けたり、運営推進会議にご家族・入居者に出席して頂き、意見をケアに反映している。	毎月、広報誌を家族の面会時に手渡したり郵送している。年に4回、担当職員が家族へ手紙を送付して日ごろの生活の様子等を伝え、意見や要望を引き出そうと働きかけている。家族の参加が得られるように行事案内も行っており、家族の来訪時には利用者と家族との会話も増えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のグループホーム会議を行っている。日々の申し送り時や申し送りノート、個別の職員との面談等を活用して意見交換をし、反映させている。	月1回のグループホーム会議や日々の申し送りで職員の意見を聞き、反映させている。また、利用者用と職員用の申し送りノートに業務の細かい提案や気になる記事等を記載して共有を図っている。人事考課の面談は、管理者へ直接意見を言える機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し、働きがいのある職場環境づくりに努めている。又、法人内でメンタルヘルスケア相談室など整備されている。自己研鑽の場の提供や異動、勤務地希望等の要望にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において職員の段階、職種、経験年数に応じて、内部研修、外部研修を実施している。また、資格取得に関する研修も行い資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他法人の管理者に参加して頂き、又他法人の運営推進会議にも参加し、意見交換を行っている。法人内の地域密着型事業所で定期的に会議を行い情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や困っている事に耳を傾け安心できる言葉がけに努めている。また、入居するまでにご家族・ご本人に何度も遊びに来て頂き、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前にグループホームにお越しいただき、心配な事や要望を確認させて頂いている。又、グループホームの様子をお伝えし、雰囲気を感じて頂き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前にご本人、ご家族の話や想いに耳を傾け、最善の対応ができるように、話し合いに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある「共に笑顔で暮らします」という事を大切に相手の立場に立ち、感謝を忘れず、一方的なケアにならないように、暮らしのなかでできる事をおこなっていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとって家族は、精神的な支えであること、家族と共に支えていきたい事をお伝えしている。面会時には、日々の生活の様子が共有できるような関係づくりに努めている。家族参加の行事を行い、繋がりが途切れないよう支援している。	入居前からのかかりつけの歯科や美容院への送迎、お盆の墓参り、お正月の家族との外食、季節のドライブなどについて家族から支援してもらっている。家族の面会や支援が利用者の落ち着いた生活につながり、家族は利用者の精神的な支えとなっていることを家族に伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れた際は、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮している。又、地域の行事にも積極的に参加し、知人とのふれあいの機会を大切にしている。	馴染みの美容院の利用など、家族の支援を得ている。家族が多忙でなかなか面会に来れない利用者には、勤務先や自宅を訪問するなど気持ちに寄り添った支援を行っている。また、学校に花の苗をもらいに出かけた際、応対した学校職員が利用者の教え子だったことがわかり、関係が繋がった例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気持ちよく楽しく過ごして頂けるように、職員は必要に応じて、ご入居者同士の橋渡しができるような支援を心掛けている。現在、入居者同士が助け合い、支え合って生活されている為、思いやりの心が感じられる雰囲気となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方でも関係性を大切にしている。近所でお会いした際や、来て頂いた際、生前のお話や現在のお気持ち等をお聞きし、今後もいつでも来て頂けるようお話しさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの想いシート」で一人ひとりの暮らしの希望や意向を把握したり、日常的な会話の中から要望や想いをくみ取れるように努めている。又、内容等を経過記録に残し、申し送りや会議等で職員間で情報の共有に努めている。	法人で使用している「あなたのおもいシート」を活用し、入居後に聞き取りを行い把握に努めている。言葉で引き出すことが難しい場合は表情や様子から汲み取り、検討している。1年に1回見直しを行い、追記した情報で更新している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後、ご本人やご家族から今までの暮らし等をお聞きしたことをもとに、24時間シートを作成して、これまでの暮らしの把握に努めている。	利用者や家族から聞き取りを行って把握している。後で追加された情報については日々の申し送りやケア検討会で周知し職員間で共有している。記録は1年に1回更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過記録や毎日の申し送り等で状態の変化や様子を職員間で情報共有している。また、必要に応じてかかりつけ医に様子を伝え、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、ケア検討会議等で意見を出し合い作成時に反映している。現状に即したかわりが出るように都度話し合いを行っている。	入居時は計画作成担当者が暫定の計画を作成し、2～3ヶ月様子をみたり話を聞いて支援内容を検討し、計画を見直している。担当者会議には利用者、家族が参加しており、検討の後、担当職員が主になって計画作成担当者と相談しながら計画を作成している。担当職員が3ヶ月に1回モニタリングを行い、年に1回会議で評価を行って現状に即した計画になるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫など経過記録に残すと共に、申し送り時他職員にも伝え、情報の共有に努めている。モニタリング・プラン更新時に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望により添えるように柔軟な対応に努めている。また、ご家族の協力を得ながら、支援をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や金融機関、美容院等希望に応じて活用している。その際、知人の方とお会いしお話しをする事も多く、楽しみの一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されている方は、継続して受診して頂けることをお伝えしているが、現在はいられない。入居後は協力医が月に一回往診して下さり、本人、家族の意向も踏まえながら協力医と連携し支援している。	協力医院へ変更を希望する利用者が大半で、訪問診療の際は可能な限り家族の同席を得ている。薬の変更や検査などについては電話で家族に報告している。「看護連携連絡票」に診察結果を記載し、隣接の特別養護老人ホームの看護師にも利用者の状態を把握してもらっている。協力医院とは、利用者の体調の変化について夜間帯でも電話で相談し指示を仰ぐことができる。歯科や専門医への受診は原則家族に対応を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にある看護師と日常の体調管理や相談を行うとともに、夜間のオンコール対応を行っている。様々な病状に応じて看護師に相談することで適切な処置、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、ご本人の意向を踏まえ対応している。又その際は病院関係者と連携しながら対応させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り、ご本人、ご家族の希望に添えられるように努めている。事業所のできるどころ、できないところをご家族にお伝えし、ご家族の意向も踏まえて協力医と医療連携体制にある看護師と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・看取りについての指針も備えており、過去に6名の看取りも経験している。入居時及び利用者の状態の変化があるときには、その都度家族等と相談しており、事業所としてできる看取りの支援内容についても説明を行うとともに、希望に応じて特別養護老人ホームの入所申請の支援もしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を2年に1回全職員が受講している。職員間で急変時や事故発生時等のマニュアルについて都度確認、話し合いをおこなっている。	急変時の対応マニュアルやフローチャートを備え、年に2回訓練を行っている。連携している特別養護老人ホームの看護師から個々の利用者の疾病の注意点や対応方法の助言をもらって指導を受け、職員間で共有している。全職員が救命救急講習を2年に1回繰り返し受講して実践力を身につけている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害を想定した防災訓練に、隣接する中之口愛宕の園と連携をはかりながら、入居者全員参加の避難訓練を実施している。	防災マニュアルを備えており、隣接の特別養護老人ホームと合同で日中・夜間を想定した防災訓練を年2回行い、地域の消防団の参加も得ている。地域の防災訓練には利用者と一緒に参加し、自治会長には事業所の特性を伝え地域への説明をお願いしている。水害の際の地域の避難場所として特別養護老人ホームの2階が指定されており、受け入れの研修を実施したり、事業所でも3日分の備蓄を備えて協力体制を築いている。備蓄は、防災委員会がリストアップして使用・消費期限の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分だったら自分の家族だったらと常に考え、一人ひとりの尊厳や誇りを傷つけないように努めている。親しみを込めた言い方の中にも礼儀を忘れず、人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに対応している。	認知症に関する研修での学びを基本に、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。居室への入室は許可を得てから入り、居室の掃除も利用者に確認しながら一緒に行っている。「赤ちゃん言葉」についても注意喚起し、呼称についても姓を常用して、複数名が重なる場合のみ名前を使用することに職員間で統一している。入浴や排泄の際に同性介助を希望する方には同性職員が対応している。利用者に関する記録は事務所で扱い、個人情報には鍵のかかる保管庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の想いや意向をお聞きし、その気持ちに寄り添えるよう努めている。ご本人が意思決定できるように一つの支援時にご本人に確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、声を聞きながら、個々の希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類もご本人の好みに応じて、選んで頂けるように支援している。身だしなみやお肌のお手入れ、お化粧品が出来るように、物品の準備等支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中から、食べたい物やお好きな物をお聞きし、できるだけ希望に添わせて頂いている。一緒に買い物から食事の準備、片づけまで、できる事をして頂き、季節の野菜や食材等もメニューに取り入れ季節を感じて頂いている。	食器や箸は利用者の好みのもを準備してもらって使用している。地域のスーパーへ利用者と一緒に週に2~3回買い物に出かけ、下ごしらえや味付け、盛り付け、後片付けも利用者と一緒にしている。献立は基本的に職員が考えるが、地域の方からの差し入れの野菜や買い物してきた食材、残りの材料などにより柔軟に変更している。月に1回はパフェを食べに出かけたり、出前を取って楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録を参考に一人ひとり必要な栄養素が確保できるように努めている。メニューは職員が栄養バランスを考え作成している。また、その都度入居者の状態に応じた食事提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に応じて、言葉掛けやお手伝いを行っている。義歯も週2回洗浄剤を使って食毒している。コップ、歯ブラシも毎週1回消毒して感染症予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて、言葉かけや見守り、付き添いなど行っている。日中は全員トイレで排泄を行っている。入居者の状態に応じながら、紙パンツ、布パンツ等自立に向けた支援等を職員間で情報の共有に努め支援している。	各居室にはトイレが設置されており、利用者は居室のトイレを使用している。排泄用品を使用している方にも職員が就寝前に声掛けするなど、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳と10時と15時に水分補給の他、いつでも飲んでいただけるよう準備している。1日の食事の中に乳製品や果物、海藻類が入るように献立を考えている。それでも排便が困難な方には、かかりつけ医に相談して薬等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めていない。1～3日おきに入浴して頂いている。個々の希望としては毎日入りたい方が多いが、対応できていない。夜間浴を希望される方がいないため、夜間浴は実施していない。	入浴日は決めていないが、毎日14時から入浴ができるようにしており、少なくとも3日に1回は入浴できるよう支援している。しょうぶ湯やゆず湯も提供し、季節ごとに楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、入居者のそれぞれの希望される場所で休んで頂いている。寝具は1週間に1回は交換させて頂いている。季節や室温、体調に応じて掛け物調整やお部屋の温度管理に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のお薬カードは個々のファイルに綴じてあり、内服薬の変更については、経過記録、申し送りノート、口頭で確認している。必要に応じて副作用についても周知している。症状の変化についても経過記録等で情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの興味のあるもの、趣味など日々の生活の中で楽しんで行われている。散歩や買い物の付き添いなどで気分転換等の支援をしている。又、得意な事、役割等に励んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物は状態に合わせて支援している。また、ご家族の協力もあり希望に添って外出されている。季節を感じて頂けるような外出支援、行事を行っている。	隣接する特別養護老人ホームの車を借りて、希望する利用者として外出を楽しんでいる。年間行事として花見や菊祭り等に外出している。天気のよい日はドライブに出かけたり、食材の買い出しや洋服の買い物に出かけている。また、利用者の希望に応じてお菓子を買に行ったり、自宅に行ったりもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望、能力に応じて、お金を自己管理されている方もいる。その他の方は、事業所で管理して必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙があった場合はその都度、支援させていただいている。電話をかける際も、必要に応じて支援をおこないご家族との会話ができるように対応している。遠方のご家族や親せきの方から荷物や手紙を送って頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有スペースに花を飾ったりして季節を感じて頂けるように配慮している。庭には花を育て、リビングの中から様子が見られるように配慮したりしている。また、入居者が居心地良く過ごせるよう、しつらえを都度検討している。	共有空間の畳スペースを利用者の要望でカーペット敷きに替え、ソファを置いて模様替えを行った。壁には利用者が協働で作成したパッチワークのタペストリーを飾り、個人で作成した作品も展示している。利用者は居室で過ごすのと同様に共有空間で本を読んだり、計算に取り組んだりと思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル席、ソファなど個々にお好きな場所で過ごして頂けるよう椅子を多く配置したり、希望に添って和室はフローリングにさせて頂き、都度見直して心地よい空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものを持って来て頂き、居心地のいい空間になるようにご本人やご家族と相談している。入居者の状態に合わせたしつらえなど検討し配慮している。	居室にはトイレと洗面所、クローゼットが備え付けられており、ベッドは自分のものを持ち込んだり、レンタルを利用している。利用者は冷蔵庫や使い慣れた椅子、たんすなどを持ち込んだり、写真を飾り、自分らしい設えにしている。家具等の配置は利用者の動線に配慮し、移動がスムーズになるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて生活しやすい環境にさせて頂いている。本人のできる事が安全に行って頂けるように、特に危険箇所はないか細心の注意を払い環境整備に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				